

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成26年度実装活動報告書

研究開発成果実装支援プログラム
「聴覚障害高校生への遠隔パソコン文字通訳での授業支援」

採択年度 平成26年度

実装責任者 玉田雅己

(特定非営利活動法人

バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター、代表理事)

1. 概要

初年度は主に準備作業ならびに優先項目の実施を中心に行った。

聴覚障害高校生4名に対し4月～合計で約1000時限/年（半期で約500時限）の実装試行実験を行い、平成25年度と累積して約1500時間の実績となった。以前より課題であった教師の音声品質改善策（ワイヤレスマイク導入）を講じ、文字通訳内容の充実を図り効果が得られた。しかし、安定しておらず継続して社会実装する上で課題抽出と対策検討を行う。

有識者評価に向けて、こども環境学会の有識者と評価観点の意見交換を実施した。来年度に向け、現地モニタリングを含めた準備に着手した。

運用面の機能改善としてシステム改善の具体的な内容について関係者と調整を行い、ソフト外注による運用機能改善対応の開発に着手した。今年度中に試行版納品を受け、来年度から試行導入を行い更なる改善を実施する。ただし、生徒用連携機能については試行の中で利用者の意見をヒアリングしながら改善していく。

マニュアル整備として、文字通訳者との意見交換を行い、マニュアルとして必要なコンテンツの整理を実施し、構成案を策定した。

制度化の準備として、本プロジェクトについての広報資料を第三者視点でのとりまとめを実施した。NPO法人「二枚目の名刺」等のサポートを受け資料をまとめ、理解普及のため中間報告会を開催した。今後、本資料をもとに関係省庁、教育委員会等とコンタクトをとり概要説明、広報活動を行う。

2. 実装活動の具体的内容

(1) 実装試行実験

聴覚障害高校生4名に対し、今年度4月～合計で約1000時限/年間（半期で約500時限）の授業支援を行い、平成25年度と累積して約1500時間の実績となった。

聴覚障害高校生4名「ろう生徒」（高校1年生・高校2年生）に対し、授業支援を実施した。対象授業は、高校1年生2名に対しては、現代国語、英語コミ、英語文法、生物、化学、科学、地理、現代社会の8科目。高校2年生2名に対して、現代国語、古典、英語コミ、物理、現代社会、日本史、世界史、保健、家庭科の9科目を実施した。また、授業以外に、オリエンテーション、部活動説明会、修学旅行中の講話に対しても情報支援を実施した。

表1 平成26年度 聴覚障害高校生への遠隔パソコン文字通訳での授業支援 実績

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
時限	64	103	164	36	111	141	133	66	80	109	41	1048
計	478時限					570時限					時限	

課題であった教師の音声品質改善策（ワイヤレスマイク導入）を講じ、文字通訳内容の充実を図り効果が得られた。高音質化により文字通訳者から情報が増え授業内容

がよりわかりやすくなったことから、生徒自身からの授業での情報支援の要求も増し、積極的な授業参加を促しているケースも見られた。しかし、音声品質上不安定な状態もあり継続して改善を実施し、さらに社会実装する上で課題抽出と対策検討を行う。

(2) 有識者評価

こども環境学会を中心とした有識者に本プロジェクトの概要と状況の説明及び評価観点の意見交換を実施した。生徒、教師、文字通訳者の状況と導入時の課題を共有し、特に教師の視点からアドバイスをいただいた。引き続き評価観点の整理を行い、来年度に向けて現地モニタリングを含めた準備に着手した。

(3) システム改善

運用面の機能改善としてシステム改善の具体的な内容について関係者と調整を行い、ソフト外注による運用機能改善対応の開発に着手した。具体的には生徒の時間割に対して情報支援者のマッチング支援を行う機能を実現している。試行版納品を受け、来年度から試行導入を行い更なる改善を実施する。なお、生徒用連携機能については試行の中で利用者の意見をヒアリングしながら改善していく。

(4) マニュアル整備

マニュアル整備として、T-TACcaptionの使用法、文字通訳者の基本ルール、利用生徒への説明、学校や教員への説明資料の原案を作成した。今後、三者（文字通訳者、生徒、学校）からの意見を加えて完成させる。また、ログをチェックし、文字通訳者が表出した文章がろう高校生にとって理解しやすいものであるかを確認し、音声日本語の要約と読みやすい文章の作り方について検証した。今後、文字通訳者、利用生徒の意見を反映しながら高校の授業に適した要約文の作り方を探る。

(5) 制度化準備

NPO法人「二枚目の名刺」等のサポートを受け、聴覚障害高校生への授業支援の制度化に向け、第三者視点でとりまとめを実施した。Web上のプレゼンサイト（スライドシェア：SlideShare）に、「合理的配慮事例レポート」として「ろう者の社会生活における「合理的配慮」とろう生徒の選択肢の多様化について」と題して一般社会向けに掲載した。また、理解普及のため中間報告会を開催し、一般参加者への情報発信のほか、マスコミ、研究者等の取材を受け、今後、一般社会に向けマスメディアの協力を得ながら情報発信をしていく予定である。

また、議員向け提案資料「聴覚障害高校生への授業支援について」を作成し、国会議員3名と順次面談し提案を実施した。今後、引き続き他の国会議員、関係省庁、教育委員会等とコンタクトをとり概要説明、制度化に向けた広報活動を行う。

3. 理解普及のための活動とその成果

(2) 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
平成26年 12月27日	B B E Dサポートプロジェクト中間報告会 N P O法人 「二枚目の名刺」主催	下北沢ら ふらす	ろう者の情報保障の新しい形として ITが発達する中これまでにない情報支援の方法がある。ろう高校生の選択肢を多くするために、行政を巻き込んだ議論を展開し制度作りに踏み込んだプロジェクトの中間報告会を実施。	一般市民 マスコミ 研究者	参加者 約20名

(5) WEBサイトによる情報公開

スライドシェア：SlideShare) 「合理的配慮事例レポート」
<http://www.slideshare.net/pbnresearchers/ss-46412701>

ろう高校生への遠隔情報支援 (ニュース) <http://pcmoji.bbed.org/news/>
議員向け提案資料「聴覚障害高校生への授業支援について」掲載

以 上。